令和４年度　向粟崎小学校評価報告書

（自校の実態に応じた学校評価書）

①よくあてはまる　②あてはまる
③あまりあてはまらない　④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	①	○成果　◆課題　・改善策
学力の向上	基礎学力の確実な定着を図る取組の充実	「聴く」ことを中心に共通理解・共通実践を行っている。	学級の実態に合わせた学習規律の定着のための取組を実施した〔努力指標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 93.7%	56.2%	◆聴くことを中心にした学習規律の徹底を図ることで、①「よく当てはまる」が20ポイント以上高くなったが、児童の実態は肯定的評価が5ポイント近く低くなった。 ・指導の差がなくなるように、共通理解、情報交換を行い、共通実践を図る。
			友達や先生の話を反応しながら最後までしっかりと聞いている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 91.8%	45.9%	
	学び合い、高まりの実感できる授業づくり	授業のねらいから、ゴールの児童の姿を明確にできていない。授業の終末の時間を確保し、自己の変容に気づかせる授業づくりが求められる。	ねらいに迫るための深めの発問を実施した。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 81.3%	12.5%	○高まりを実感するための手立てを深めの発問に絞り、意識して取り組んだため、教師が深めの発問を実施するようになった。 ◆分かったできた、深まったを実感するＭ４までいくタイムマネジメントができていなかった。 ・導入にかける時間を短くし、自分の考えをもたせる手立てをとる。
			授業を通して、できることがふえたり、考えがより深くなったりした。	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 88%	52.1%	
	学力向上ロードマップの活用	学年・学級間格差が生じないよう、組織的なＰＤＣＡサイクルを進めていく必要がある。	学力向上ロードマップのPDCAサイクルをもとに、組織的に学力向上に取り組んでいる。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 94.1%	23.5%	○学力向上プランやカリマネシートについて月１回の各学を中心に検討することによって意識が高まった。
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。〔努力目標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 93.7%	56.2%	○授業や行事を通して生徒指導の三機能を意識した取組ができた。 ◆授業やそれぞれの行事でどのように児童を認めていくのかという具体的な手立てについては共通理解ができなかった。 ・教職員全体で授業や行事において、児童をどのように認めていくのか、具体的な手立てを講じていく。
			「心のアンケート」をもとに、子どもと自分や友達のよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 75.3%	15.6%	
			友達のよいところや頑張りを認めている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 82.8%	30.5%	
			友達から認めてもらっている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 76.4%	32.0%	
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはうまくできない子も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。〔努力指標〕	学級・教科経営案	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 87.5%	68.7%	○学校や学級での具体的な取組を進めることで、①「よく当てはまる」が前期と比較し、20ポイント以上高くなった。 ◆児童の実態は肯定的評価が5ポイント近く低くなり、教師と児童の意識の差が大きい。 ・取組がもっと児童主体になるように工夫をしていく。
			子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 83.3%	22.2%	
			先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 86.5%	51.4%	
健康と安全	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通した基本的生活習慣の確立	基本的な生活習慣の定着させるために、就寝時刻を守ることが必要がある。	児童が健康（生活プランニング）や安全に気をつけて生活するための指導をした。〔努力指標〕	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	A 100%	44.0%	○生活プランニング実施期間中は、児童も保護者も意識して取り組んでいた。前期より目標時間を守れていた。 ◆実施期間が終わると、守れない児童がいる。 ・取組の期間だけでなく、習慣化するように、定期的に声かけをして意識付けしていく。 ・プランニングの目標就寝時刻の設定は、原則、学年目標時刻を基準として取り組ませる。
			子どもは学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	保護者アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	C 70.4%	22.0%	
			学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	児童アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	C 73%	35.5%	
地域との連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていく必要がある。	地域人材を活用した授業を行った。〔成果指標〕 ①：３回以上　②：２回 ③：１回　④：０回	教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	B 75.1%	43.8%	○「ウィズコロナ」の中での取組が実施できた。 ・地域と連携し、活動内容のさらなる充実を図りたい。
働き方改革	町教職員働き方改革方針の目標達成	月によっては超過勤務時間が８０時間を越える職員もいる。	ノー残業デーには、特別な場合を除き、６時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕 ①毎週　②月２回程度 ③月１回程度　④できなかった	勤務記録 教職員アンケート	A：①＋②が９０％以上 B：①＋②が７５％以上 C：①＋②が６０％以上 D：①＋②が６０％未満	C 61.9%	38.1%	○前期と比較し、10ポイント以上高くなった。定時退庁日の意識が大きく向上した。47.6%→61.9% ◆時間外勤務時間が多い職員が依然として固定化しており、行事や訪問を控えた月の時間外勤務時間が増えた。 ・固定化している職員に対しては、管理職がその状況の聞き取りを行い、アドバイスを行う。また、業務削減を具体的に見える形で実行する。
学校評議員による意見			・電子黒板や端末パソコンの活用ができている。 ・活発に意見を言う子供たちの姿が見られた。 ・高学年の挨拶が声が小さく伝わってこない児童が多いのが残念である。 ・緑台の交差点、内灘駅前の横断歩道、踏み切りなどルールを守らない子供たちがいるので指導が必要である。 ・アカシア交差点の横断歩道ペンキの塗り替えが必要である。 ・生活習慣は生活プランニングの期間だけでは身に付きにくい。習慣化できるとよい。 ・昨年よりも行事が戻ってきて良かった。昔遊びなど、地域ボランティア活動に協力するので、交流を進めてほしい。					